

平成30年度岐阜県大会

生徒講評文

8月 2日 2校目	岐阜第一 高等学校
TSUISHI 2018	(既成・ 創作)
<p>この劇のテーマは「乗り越える」だと感じた。</p> <p>4時からの英語の追試のため、タイゾウと友人達は先生を待っている。しかし先生が来るどころか4時から時間が進まない。なぜならば舞台はタイゾウの夢の中だったからだ。また、友人達は高校生の頃の両親や死んだはずの友人、離れ離れになった友人など、タイゾウにとって大切な人達であった。追試に至るまでの過程が何度も繰り返され、追試を受けることができない。仮に追試が行われたとしても、追試は合格するまで何回も繰り返される。つまり追試は過去に囚われていることを象徴しており、その夢から覚めたことから、タイゾウは過去を乗り越え成長したのだと感じた。</p> <p>劇中での盆踊りが「同じことの繰り返し」を示しており、夢の中での時間がループしていることを表していた。盆踊りは死者の魂の蘇りを表しているとも感じた。キャストがネタを解説したり、前に出て演技をしていたりしたところから、観客を大切にしていると思った。</p> <p>音響照明はシンプルで、キャストの演技をひきたたせていた。</p> <p>装置では、架空の人物や友人達の席はまとめられていたが、タイゾウの両親の席だけ対角線上であった。本来はまだ出会わないはずの二人が接点をもたないよう、教室の席順に工夫がしてあった。</p> <p>全体的にテンポが良く、全員が役になり切り息が合っていたため、終始楽しく見ることができた。同じことを何回も繰り返すという難しい演技も自然で、練習を積んできたのだと思った。</p> <p>岐阜第一高校の皆さん、お疲れさまでした。</p> <p style="text-align: right;">大垣商業高校 安藤千秋 太田陽菜 後藤さくら</p>	

